

身近な人や自然と主体的にかかわる活動を通して、自己の成長を感じる生活科の授業づくり
～ 1年 身近な秋とかかわる体験活動を通して ～

日立市立成沢小学校

1 はじめに

小学校学習指導要領解説生活科編の目標には、「具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う。」と記されている。「具体的な活動や体験」とは、見る、聞く、触れる、作るなどの活動のことである。児童が身近な人々や自然、地域に働きかける中で、上記のような活動をしていくことで、新たな気づきや表現する喜びを感じ取り、自己の成長を実感できることが大切である。

そこで、本校の1年生の生活科「秋と仲良し」では、学校や周囲の自然とかかわり、友達や保護者とともに学習し、気づきを高める実践をしている。学区には、茨城大学工学部キャンパスのグラウンドがあり、草原が広がっているので学校では見られない植物を観察できる。地域の恵まれた環境を活用し、季節の変化を身近に感じ、それらとかかわる活動を行いたいと考えた。

2 実践事例

(1) 単元名 あきとなかよし

(2) 目 標

- ① 身近な自然に関心をもち、諸感覚を使ってかかわり、楽しく生活しようとしている。
(自生活への関心・意欲・態度)
- ② 木の実や葉っぱなどの秋の自然物や身近な材料を使って、工夫して作品を作ったり遊んだりし秋のおもしろさを表現できる。(活動や体験についての思考・表現)
- ③ 身近な自然と関わり、季節の変化に気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気づき)

(3) 指導にあたって

本単元では、季節の変化と生活との関わりに焦点を置き、活動を進めたい。児童が夏との比較により、秋の様子を感じ取るようにしていく。そのために、地域を探検して、木の実や葉っぱなどを収集したり、遊んだりすること、自然物を使った工作をすることで、季節の変化と実生活への関連を実感できるように指導していきたい。

(4) 本時までの学習の実際 (11 時間)

① あきがいっぱいだね (身近な秋を見つける活動 2 時間)

子どもたちの生活から季節を思い出し、身近に見つけた「秋」の様子について、話し合いを行った。児童から、木の葉っぱの色が変わったことや涼しくなったと発言があった。そして、校庭に身近な秋を探しに行った。花壇の花が変わっていることや松ぼっくりが大きくなっていることに気付くことができた。この活動を通して、

秋の様子の変化に気付くことができた。さらに「学校の外に〇〇があったよ」と発言も見られ、学校外に目を向け、地域の季節の変化に興味を持たせることができた。

② どんないろ どんなにおい どんなおと

（茨城大学工学部キャンパスで秋のものを探して遊ぶ活動 2時間）

地域の秋を見つけるため、学区内にある茨城大学工学部キャンパスに行き、自然に親しむ活動を行った。児童は、どんぐりやスズカケノキの実などを集めたり、イチョウやカエデの落ち葉で遊んだりして、秋を感じていた。

また、4人程度のグループで活動し、友達と一緒に秋を共感し、新たな気付きを得ている児童も見られた。



どんぐり拾いの様子



落ち葉で遊ぶ様子

③ たのしいね あきのあそび（集めた木の実などを使って遊ぶ 3時間）

茨城大学へ探検に行き、面白かったことを発表し合い、集めてきた木の実や落ち葉を使って、遊びを考えた。どんぐりのおはじきや落ち葉のお面など、植物の特徴を生かして遊ぶことができた。児童からは、「こんな遊びを考えたよ」「わたしにも教えて」との発言も見られ、友達との深め合う姿も見られた。

④ きれいだね おもしろいね（集めた木の実などで作品づくり 4時間）

本時2・3時間目

茨城大学へ探検に行き、集めてきた木の実や小枝を使って、飾りや遊ぶものなど作りたいもの考えた。その後、作りたいものの計画を立て、必要な材料や道具を考えた。そして、それをもとに「秋の贈り物を使った工作」を行った。3人程度のグループを組み、保護者に協力を得て、活動を行った。

（5）本時の指導

① 目標

木の実などの秋の自然物を使って、自分の作りたいものを工夫して作ることができる。
（活動や体験についての思考・表現）

② 準備・資料

木の実（どんぐり・松ぼっくり・スズカケノキの実）、小枝、接着剤、きり、はさみ、セロテープ、カラーペン、ワークシート（作品計画書）など

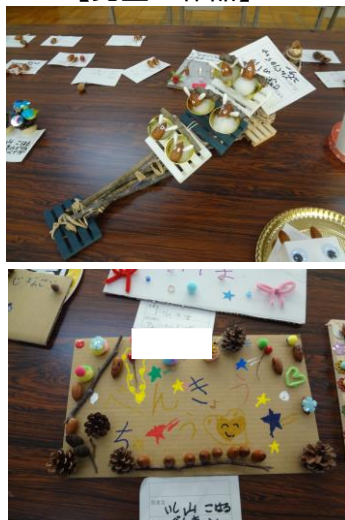
③ 展 開

学習活動・内容	指導の手立てと評価
1 本時の学習課題をつかむ。 あきのおくりものを つかって、く ふうして こうさくをしよう。 2 グループの友達と一緒に、自分の作りたいものを協力して作る。 ・ どんぐりごま ・ やじろべえ ・ けんだま ・ でんでんだいこ ・ まとあて ・ マラカス ・ ブローチ ・ ようふく ・ リース ・ にんぎょう ・ まつぼっくりツリー この中から3つ選び、制作する。 3 協力して片付けをする。 4 お世話になった保護者にお礼を言う。 5 本時のまとめをし、次時の活動を伝える。	● グループのメンバーや作る物の確認をする。 ● 材料や道具の使い方，お世話になる保護者への挨拶・お礼をすることなどの注意事項を伝える。 ● 活動開始を告げ，お世話になる保護者のところへ行き，挨拶ができているか確かめる。 ● 作り方に困っている児童には，計画書を見ることや友達に聞いてみることを助言する。 ● 作品を完成させた児童は，制作途中の児童にアドバイスをするように伝える。 ● できた作品で遊び，秋の物を使った作品の良さを友達と伝え合う。 木の実などの秋の自然物を使って，自分の作りたいものを工夫して作ることができたか。（観察・作品）

(6) 本時の学習の実際

「秋の贈り物を使った工作」では，友達や保護者とともに，「どんぐりを使うと，良い作品になった」「どんぐりの音がきれい」など，秋の良さを実感する発言が見られた。また，事後活動では，作品の展示会「秋の贈り物ミュージアム」やお世話になった保護者への礼状を書く活動を行った。

【児童の作品】



【工作後の振り返りシート】

⑪ ⑫ ⑬ あきのこうさくをしよう

がつ 日にち

なまえ

わねん生かんがであそこのころさくをしよう。あきのグループは12はねをつくる。あきのグループはどんぐりごまとけんだまとやじろべえをつくりました。どんぐりごまはあきのグループがオレンジ色とくろにけんだまはあきのグループがオレンジ色とくろにやじろべえはあきのグループがオレンジ色とくろに。あきのグループはどんぐりごまとけんだまとやじろべえをつくりました。あきのグループはどんぐりごまとけんだまとやじろべえをつくりました。あきのグループはどんぐりごまとけんだまとやじろべえをつくりました。

⑪ ⑫ ⑬ あきのこうさくをしよう

がつ 日にち

なまえ

わたしはやじろべえとけんだまとどんぐりごまをつくりました。どんぐりごまは2こつくりました。いろいろなペンのいろもつかいました。いっしょにいつくればよかった。どんぐりごまやけんだまの音がきこえました。

【秋の贈り物を使った工作の様子】



【作った作品を展示「秋の贈り物ミュージアム」】



【保護者への礼状】



3 成果と課題

(1) 成果

- 茨城大学工学部キャンパスへ秋を探しに行ったことにより、学校にはない木の実や葉っぱを見つけ、それらを使って遊び、秋を実感するために効果的であった。なお、6月にも地域探検で行っているのので、初夏との比較もできた。
- 探検や制作では、グループで活動し、友達にアドバイスをしたり、友達と一緒に作り上げたりし、達成感や満足感を感じることができた。
- 秋の物を使った工作の準備では、休日などに木の実などを拾いに行く児童も見られ、身近な自然への関心が高まった。
- 活動後に、どんぐりを使った工作を「家でやってみたい」「クリスマスの飾りを作りたい」など、積極的に実生活に結びつけて考える児童が見られた。
- 事後の活動として、「秋の贈り物ミュージアム」を開き、空き教室に児童の作品を展示した。友達の作品を見ることによって、そのよさやどんぐりなどの新しい使い方を知り、気付きを深めることができた。
- お世話になった保護者にお礼状を書き、周囲の人の助けを得て、作品ができたことが実感できていた。

(2) 課題

- 「秋の贈り物を使った工作」では、単に工作になってしまった児童も見られ、秋の物を使うと、楽しくて面白い作品ができると、意欲を持たせる手立てが必要であった。また、作品作りや遊びに夢中になってしまうあまり、本来の課題を忘れてしまう児童も見られ、助言の仕方を工夫すべきであった。